



制服でつなぐ
やさしさの循環
ストラットン恵美子(久比岐野)



Q 上越市一般廃棄物処理基本計画の基本理念に沿い、制服等のリユースを検討する保護者会や団体、企業等を積極的に支援してはどうか。

A 令和7年度は所得の少ない家庭の経済的負担軽減のため、高校の制服等を取りユースする事業を試行する。団体等から話ができれば、どのような支援ができるかを検討する。



あそび主体の幼児教育が未来の社会を変える

Q 幼児教育について、市の考えを聞きたい。

A 市立高田幼稚園では、国の幼稚園教育要領で示す自立心や協同性などの「10の姿」の資質能力を考慮した非認知能力を伸ばす教育活動に取り組んでいる。また、各園の保育の参考にしてもらうための公開保育や意見交換を通じて、今後も幼児教育の質の向上や、幼保小の連携・接続への理解が深まるよう取り組む。

Q 小1プロブレム等の課題解決のため、文科省が令和4年から始めた幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指す「幼保小の架け橋プログラム」を当市でも導入する考えはないか。

A すでに3つの小学校で実施しており、その成果と課題を踏まえ、幼保小合同研修の実施や校長会での説明を通して教育関係者の理解を深め、全ての小学校で取り組めるよう支援する。

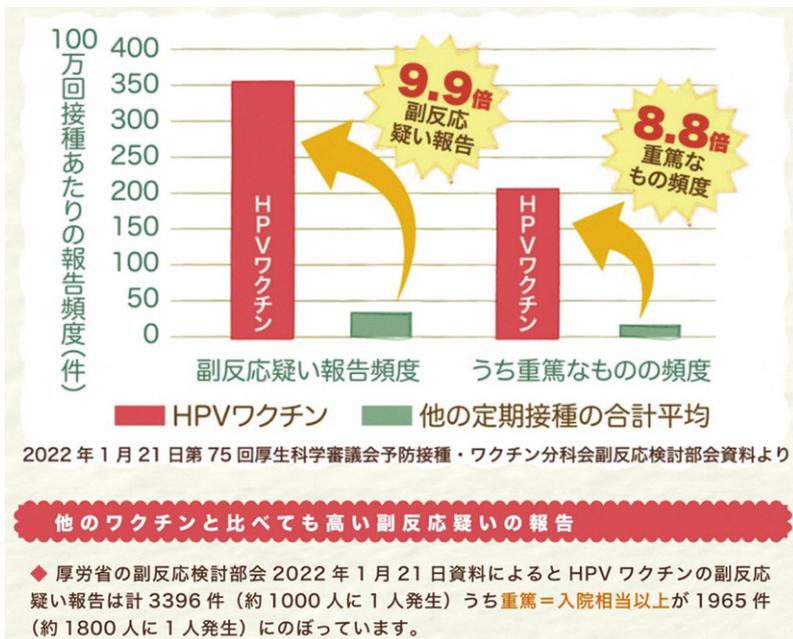


HPVワクチン
接種後の対応は
伊崎 博幸(無所属)



Q HPVワクチン接種後の長引く不調などで悩まれている方に寄り添う対応について、どのように考えているのか。

A こども家庭センターは、国の定期接種に係る健康被害制度の窓口となっており、相談や申請のサポートを行う体制を整えている。



洋上風力発電で歳入増
に先端企業誘致を!
牧井 邦生(みらい)



Q 国際会議が重ねられ、現代は脱炭素化が国際規範となった社会と言えるが、宣言した通り、ゼロカーボンシティを実現する覚悟はあるか。

A 覚悟はあり、実現できるとの確信もある。

Q 市民に実現までの道筋を、定量的にわかりやすく示すことができるか。

A 市民への説明は工夫が必要である。

Q 公開された市の資料から計算すると、ゼロカーボンシティとは、市内電力を全て再生可能エネルギーに転換し、市内自動車は全て電気自動車になった状態。市にできることは国が薦める洋上風力発電を導入することだと考える。

Q コスト、漁業資源、雷が課題で考えてない。

A 洋上風力で30万人の世帯電力を2年間賄ってきた秋田市を見る限り、それらの課題は全てクリアしている。事業のコストは全て有名企業が負担し、むしろ市に資産が増えるから歳入は増加する。漁業資源は傷まないため漁業を生業とする方からのクレームはなく、当市よりも雷被害が酷かった由利本荘市でも民間投資が決まった。また、昨年12月に石破総理が私の提案と同内容を国策とする新聞報道がなされた。工場への再生エネ供給は先端技術を持つ世界的企業こそ求めている、有望企業の誘致で有利だ。技術志向の市政に転換して経済を成長させて欲しい。

A 引き続き、調査研究を行っていく。